住宅と医院を造る―2

昨年２０２１年10.月号に「住宅と医院を造る」を掲載しましたが、この号では医院についてレポートします。前回の文章を一部重複して掲載しました

敷地は500坪ほどで矩形の敷地。南北側に道路がありましたが、中央の庭を挟んで北側に住宅を、南側には医院を配置しました。

設計にあたり医師の希望は医院らしくない医院にしたい、そして患者さんがくつろげるゆったりとした場にしてほしいとのことでした。

内科の医院で、医院の機能は待合室、受付、診察室、処置室、レントゲン室、カルテなどの資料庫、休憩室を設けています。

建物は平屋建てのＲＣ壁構造、外壁はレンガタイル張りとし、内部の主な仕上げは床は高耐久シートのアームストロング貼り、壁はモルタルにＡＥＰ仕上げ、天井はラワンベニア張りとしています。

玄関は南側から入りスリッパに履き替え、個別の靴入れには蓋を付け鍵も設けてあります。待合室は南側に位置し、冬の陽ざしを受ける温かい窓際にはソファが作り付けてあります。また目の前には小さな温室を設えトップライトを取り付けて光が入るようにし、そこに座ると患者さんがリラックスできる場にしました。

待合室の対面に受付スペースを置き、奥にカルテ等の資料庫を置いています。レントゲン室は待合室の奥にありますが、診察・処置・検査室はワンルームにし、個々のスペ―スはスクリーンで仕切ってあります。レントゲンの操作室はこのスペースから繋がる動線となっています。

診察室は北側に位置していることにより少し暗い感じになりがちなので窓は大きくし、採光を取り入れるようにしました。それにより住宅の庭の緑が見られ、借景になっています。

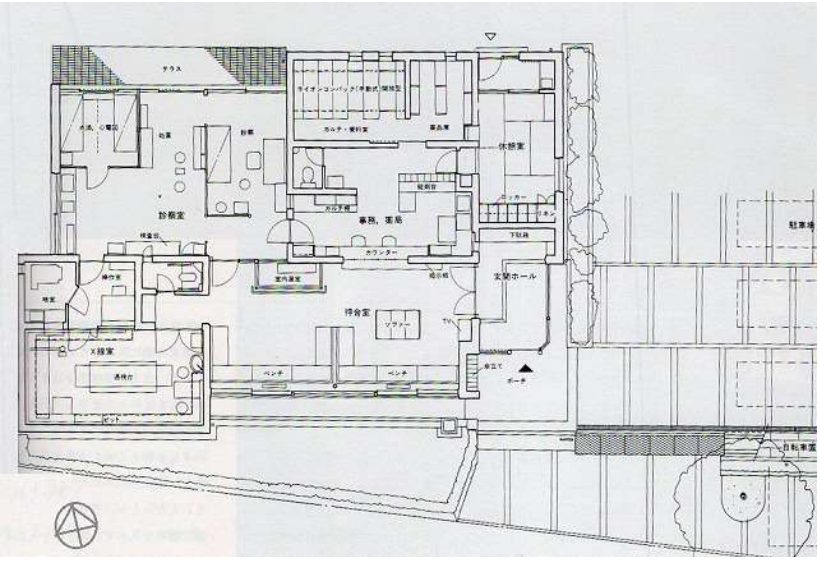
天井照明は、蛍光灯と白熱球を組み合わせ温かみのある光を作っています。

この計画のプランと外観のパースは奥村先生が基本を制作し、全体は私が設計監理を担当しました。

このパースは奥の和風の家と同時に墨絵調で描かれていますが、普段のパースは色鉛筆仕上げが多かったです。

南西より見る　屋根の上に出ているのはミニ温室のトップライト

待合室　窓に遮光戸、右側にミニ温室、ドアはレントゲン室へ



※配置図は、ニューハウスより　図面と写真は医院建築 no.2より

2022.2.6